

窪小学校 学校だより



大地

令和6年2月号

校長 指崎 邦久

晴れた日の休み時間にグラウンドで元気よく遊ぶ子供や大なわとびに入れるように練習を繰り返す子供、友達と笑顔で話をする子供の姿がみられます。3学期が始まり1か月が過ぎました。3学期当初、地震による影響を心配していたのですが友達と仲よく学校生活を送っている様子を見て、子供の心の回復力に感心しています。今後も心のケアに気を付けながら友達と力を合わせて、いろいろな活動にがんばれるように指導していきたいと考えています。



心の健康観察から

地震によって不安定になった心をいち早くくみ取れるようにするとともに、子供が自分の心を見つめられるようにしたいと考え、1月16日から31日の期間に、タブレットPCを使って心の健康観察を行いました。心の健康観察の結果を活用して、子供の不安や体調の変化等に気を付けてきましたが、次第に「元気がない」という子供が減っていきました。1月16日には11名が「元気ではない」と答えていましたが、1月29日には2名になりました。数が減ったからと言って安心することなく、今後も、声をかけたり、気を付けて見守ったりしていきます。「心の健康観察」の結果では、体の変調があるとした子供の半数近くが「ぐっすり眠れていない、夜目が覚める」と答えました。心に受けたショックが現れたと受け止めています。本人には自覚がないかもしれませんが、この他にも、落ち着かない様子や、我慢ができなくなっている様子がみられます。学校では、一人一人が落ち着いて学習や活動に集中できるように努めていきます。ご家庭でも、安定したリズムで過ごし、元気に学校へ登校できるようにお願いします。

生き生き窪っ子 いろいろな場面で生き生きと活動する窪っ子の様子を紹介します

くぼっこ集会

1月30日（火）に、給食委員会、美化委員会、栽培委員会が共同で児童集会を行いました。給食委員会は、給食センターの皆さんが衛生に気を付けていることを中心に、クイズ形式で伝えました。美化委員会は、掃除の仕方や意義をキャラクターに扮した子供へのインタビュー形式で伝えました。栽培委員会は、花がもたらす豊かな生活について絵本の読み聞かせを通して伝えました。

どの委員会の発表も準備や練習を重ねた、楽しく分かりやすいものでした。参加した子供たちも、楽しい発表のときには友達と顔を見合わせて喜び、次の発表が始まると、しんと静まり話を聞きました。素晴らしい集会でした。



なわとび

体育の時間等で、なわとびに取り組んでいます。2月14日に「窪小なわとび大会」を行い、大なわに取り組んだ成果を発表する予定です。各教室では、短なわの練習をしたり、大なわに全員が入れるように取り組んだりしています。体育の時間には、大なわに入るタイミングに合わせた声や励ましの声をかけるなどの様子から、思いやりの心が感じられます。明るい表情で、息を弾ませて取り組んでいました。



「スマホ脳」の著者であるアンデシュ・ハンセン氏は、著書「運動能」の中で、週に3回、息が弾む程度の運動を20分間行うと記憶力や思考の力の向上、そして心の安定に効果があるという実験結果を紹介しています。体を動かせば全てうまくいくわけではないでしょうが、なわとびに親しむことで体力の向上をはじめ子供たちにより影響が出ることを期待しています。

スキー学習

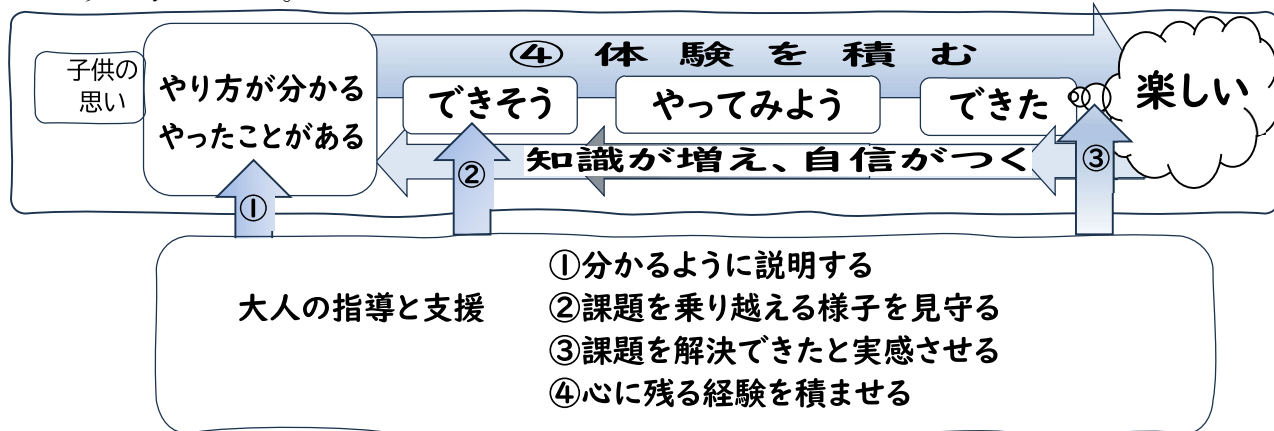
6年生が1月31日（水）に、5年生が2月7日（水）に、南砺市にあるイオックスアローザスキー場へスキー学習に行ってきました。6年生は、昨年が続いてのスキー学習であったため、スキーの操作に慣れていたようでした。景色や滑り降りる爽快感を味わいながら友達と楽しく過ごしていました。うまく曲がれなかった子供たちもどんどん上達し、思い通りに曲がるようになって、「楽しい」と喜んでいました。



5年生は、ほとんどの子供が初めての体験でしたが、粘り強く取り組んでいました。インストラクターの指導をよく聞き、素直に実行し、めきめき上達する子供がたくさんいました。午後1時半ごろには、「もっと滑りたい」という声がたくさん聞かれました。



子供の姿を見ながら、子供はどのように楽しいという気持ちにたどり着いたのか次の図のように考えました。



今回はスキー学習での子供たちの姿を基に考えましたが、生活の中のいろいろな場面でも「できた」と実感し、次への自信につながるように、学校と家庭が連携しながら指導し、支え、見守りたいと改めて感じました。